

村民の記憶

—東海村、そのとき、あなたは—

episode 4

東海村の文化をつなぐ

東海村が誕生して25年がたち、高度経済成長を通して開発が進み、施設や道路、店舗など、生活環境が整う一方、民俗や自然が失われていく中で、「村史編さん」や「自然調査」を通して東海村を調べ、知るという事業が始まりました。「モノでなくヒトに予算を使う」事業によって、村で生まれ育った人も新たに移り住んだ人も、“自分が住んでいる地域がどのような場所なのか”という基本的かつとても重要なことを知ることができ、現在まで人や本を介してつながってきました。

『東海村史』編さん事業

昭和55（1980）年、東海村発足25周年記念事業として「村史の編さん」が始まりました。当初は、教育委員会の石澤通さんが1人で、古文書の所在調査や、住民の方たちと石仏・石塔の調査をしていました。昭和63（1988）年になり事業が本格化し、企画課に村史編さん係（2人）を設置して、編さんのための組織づくり、資料収集、調査活動が活発になってきました。

通史編・民俗編の各専門委員会や、村史編さん事務局の会議、日本全国の実地調査を行いながら村史の全体イメージをつかんでいきました。特に民俗編は時間がかかりましたが、明治生まれの古老から昔話や講、民俗行事、村民の生き様を知ることができ、その古老からしか聞くことのできない貴重な体験でした。また、塙千里さん（東海村文化財保護審議会委員を務めたほか、村史編さん事業にも関わった）はとても優しく、物知りで、民俗行事の度に連絡をくれて、随分とお世話になりました。

実際に『東海村史』が完成した時には、部署を異動していたため立ち会うことはできず悔しさもありましたが、出版物という形で残るものがあって、自分の仕事が報われたと感じました。村史編さん事業に関われたことで、先人の方々の努力と英知の上に今の東海村があること、“歴史があって今がある”ということが分かり、仕事だけど仕事以上のものを経験させてもらいました。

東海村社会福祉協議会 関田秀茂さん
（昭和60年東海村役場入庁）

昭和末～平成10年代の東海村の主な出来事

- 昭和55年 東海村発足25周年
- 60年 東海村史編さん事業開始
- 平成2年 東海村自然調査会発足
- 3年 東海村文化・スポーツ振興財団設立
東海十二景制定
- 4年 『東海村史』刊行
- 5年 子供議会開催
- 6年 『東海村の自然』刊行
- 7年 第1回「東海1～MOのまつり」開催
- 9年 役場新庁舎（現在の庁舎）完成
- 11年 ジェイ・シー・オー臨界事故
- 12年 東海村初の女性救急救命士が誕生
- 14年 「とうかい環境フェスタ2002」開催
- 15年 「村松海岸砂防林造成の碑」序幕
- 16年 総合福祉センター「絆」開館
- 18年 新村立東海病院開院
- 19年 『東海村の自然誌』刊行



当時を振り返りながら、村史編さん事業の思い出を話す関田さん



『東海村史 通史編』（1992年）
『東海村史 民俗編』（1992年）

東海村自然調査会

昭和62(1987)年、東海村民俗調査の会と社会教育課で行っていた民俗調査が完了し、成果は『東海村の民俗』として刊行されました。村の開発が進む中で、民俗のように自然がなくなってしまう、“今やなかったら東海村の文化がなくなっちゃうかもしれない”と思い、『東海村の自然』を記録として残すことを考えました。そして、以前から知っていた茨城大学の植物分類学が専門の鈴木昌友先生に自然調査の構想について相談しました。ここで先生からお聞きしたのが、昆虫が専門の廣瀬誠先生と、地質学が専門の二階堂章信先生でした。最初、二階堂先生が在籍していた茨城県立教育研修センターでは断られてしまいましたが、調査会の会長を教育長から村長に替えるなど、構想を練り直して再度お願いした結果、熱意が伝わり、二階堂先生に参加してもらえることになりました。また、“どうしても民俗をくっつけ人との関わりも記録したい”と思い、茨城民俗学会代表理事で東海村文化財保護審議会の会長をしていた民俗学の藤田稔先生にもお願いしました。藤田先生は他市での調査依頼を断り、村の調査に参加してくださいました。

村長出席のもと、中央公民館に先生方を集めて自然調査の構想を再度説明し“日本にない最初の本を作しましょう”と話をしました。調査を担当してくださる先生方のほかに、東海村写真連盟の方にも写真記録をお願いしました。私は東海村文化協会や東海村文化祭の仕事もしていたので、『東海村の自然』に適任だと思う2人の方をお願いしました。

たくさんのお金をかけた事業ではありませんでしたが、東海村自然調査会の先生方はとても主体的に調査を行ってくださり、『東海村の自然』を刊行することができました。また、当初から先生方と定期的に東海村の自然を調査しようという話をしていましたが、このことが『東海村の自然誌』、『東海村の自然誌Ⅱ』の刊行につながっているのだと思います。



『東海村の自然』について話す町野さん

町野博さん(昭和46年東海村役場入庁)

平成元(1989)年、私が県立太田第一高等学校で教員をしていた頃、鈴木昌友先生に誘われて東海村自然調査会のメンバーになりました。

それまで東海村で調査をしたことがなく、何もかも新鮮でした。東海村は他市町村と違い、植物部会の会議や広報などでの報告会のほか、事務局とこまめに連絡を取り合い、調査費も惜しみないという環境で、苦労はなく、とてもやりがいがありました。

皆さんにはぜひ、『東海村の自然』や『東海村の自然誌』、『東海村の自然誌Ⅱ』を読んで、“身の回りにこんなものがある、単なる草でもそれなりの物語がある”ということを知ってほしいと思っています。

歴史と未来の交流館博物館長 安嶋隆さん



『東海村の自然』(1994年)
『東海村の自然誌』(2007年)
『東海村の自然誌Ⅱ』(2018年)

東海村自然調査会について話す安嶋さん



【村の記憶 大募集】

現在、「広報とうかい」では、東海まつりの記憶や当時の写真を募集していますので、ぜひ情報をお寄せください。情報は、電話またはメールで、下記の担当へご提供ください。

【問い合わせ】生涯学習課博物館・文化財担当(歴史と未来の交流館内) ☎287-0851 ✉syougaiakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp